

研 修 区 分 表

平成 年 月 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通 学	通 信	実 習	計	
1 職務の理解 (6時間)	6	—	—	6	(到達目標)
(1) 多様なサービスの理解	3	—	—	3	(講義) これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践についての理解「介護の社会化」についての経緯などの理解。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	—	—	3	(講義) 介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。 (演習)、具体的な映像などで各施設の特徴を理解
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	9	—	—	9	(到達目標)
(1) 人権と尊厳を支える介護	4	—	—	4	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚させる
(2) 自立に向けた介護	3	—	—	3	利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 (演習) 小グループなどに分けて意見交換
(3) 人権に関する基礎知識	2	—	—	2	自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点およびやってはいけない行動例を理解させる。 (演習) 小グループに分け討論等
3 介護の基本	6			6	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2			2	(1) 可能な限り具体的例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。
(2) 介護職の職業倫理	1			1	(2) ①専門職の倫理の意義、②介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)、③介護職としての社会的責任、④プライバシーの保護・尊重
(3) 介護における安全確保とリスクマネジメント	2			2	(3) 介護における安全の確保、事故予防、安全対策、感染症などの対策の理解
(4) 介護職の安全	1			1	(4) 介護職の心身の健康管理 介護職の健康管理が介護の質に影響、②ストレスマネジメント、③腰痛の予防に関する知識、④手洗い・うがいの励行、⑤手洗いの基本、⑥感染症対策 (演習) 各グループで意見交換、実技等
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9			9	
(1) 介護保険制度	3			3	介護保険制度創設の背景および目的、動向、仕組みの基礎的理解、制度を支える財源、組織、団体の機能と役割の理解

(2) 医療との連携とリハビリテーション (3) 障害者総合支援制度およびその他制度	2 4		2 4	①医行為と介護、②訪問看護、③施設における看護と介護の役割・連携、④リハビリテーションの理念 (1) 障害者福祉制度の理念 (2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 (3) 個人の権利を守る制度の概要 (演習) ビデオなど鑑賞後グループごとに意見交換
5 介護におけるコミュニケーション技術	6		6	
(1) 介護におけるコミュニケーション (2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3 3		3 3	(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション (3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 (4) 利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 (1) 記録における情報の共有化 (2) 報告 ①報告の留意点、②連絡の留意点、③相談の留意点 (3) コミュニケーションを促す環境 (演習) グループごとに意見交換し、発表し合う
6 老化の理解	6		6	
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常 (2) 高齢者と健康	3 3		3 3	(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 (演習) グループごとに老いることを実感し合う
7 認知症の理解	6		6	
(1) 認知症を取り巻く状況 (2) 医学的側面から見た認知症の基礎理解と健康管理 (3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常 (4) 家族への支援	1 2 2		1 2 2 1	認知症ケアの理念 ①認知症の定義、②もの忘れとの違い、③せん妄の症状、④健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア)、⑤治療、⑥薬物療法、⑦認知症に使用される薬 (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 (2) 認知症の利用者への対応 ①認知症の受容過程での援助、②介護負担の軽減(レスパイトケア) (演習) 事例などを説明したのちグループごとに意見交換
8 障害の理解	3		3	
(1) 障害の基礎的理解	1 1		1 1	(1) 障害の概念と I C F

(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識 (3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1			1	(2) 障害者福祉の基本理念 (1) 身体障害 (2) 知的障害 (3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） (4) その他の心理の機能障害 ①障害の理解・障害の受容支援、②介護負担の軽減 (演習) グループに分かれて障害を実感するなど実技をする
9 ところとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）	78	-	-	78	(到達目標)
(1) 介護の基本的な考え方	2			2	①倫理に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、②法的根拠に基づく介護
(2) 介護に関するところのしくみの基礎知識	4			4	①学習と記憶の基礎知識、②感情と意欲の基礎知識、③自己概念と生きがい、④老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、⑤ところの持ち方が行動に与える影響、⑥からだの状態がところに与える影響 (演習) グループごとの意見交換、調べ学習
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4			4	①人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、②骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、③中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、④自律神経と内部器官に関する基礎知識、⑤ところとからだを一体的に捉える、⑥利用者の様子の普段との違いに気づく視点 (演習) 調べ学習、ふりかえり、
(4) 生活と家事	4			4	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ①生活歴、②自立支援、③予防的な対応、④主体性・能動性を引き出す、⑤多様な生活習慣、⑥価値観 (調理実習)
(5) 快適な住環境と介護	4			4	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7			7	(実技演習) 手すりや福祉用具などの使い方。 (演習) ①身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、②身じたく、③整容行動、④洗面の意義・効果
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7			7	移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 (実技演習) 移動・移乗仕方など
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7			7	食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽

<p>(9) 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7			7	<p>しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 (実技演習) 食事と姿勢、①咀嚼・嚥下のメカニズム②空腹感、満腹感、好み、③食事の環境整備(時間・場所等)、④食事に関する福祉用具の活用と介助方法、⑤口腔ケアの定義、⑥誤嚥性肺炎の予防の仕方など</p>
<p>(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	7			7	<p>入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 (実技演習) ①羞恥心や遠慮への配慮、②体調の確認、③全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方)、④目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、⑤陰部清浄(臥床状態での方法)、⑥足浴・手浴・洗髪 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ①排泄とは、②身体面(生理面)での意味、③心理面での意味、④社会的な意味、⑤プライド・羞恥心、⑥プライバシーの確保 (実技演習) ①おむつの当て方(おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害)、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、②排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、③一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、④便秘の予防(水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食事を多く取り入れる、腹部マッサージ)</p>
<p>(11) 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	3	-	-	3	<p>(講義) 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 (実技演習) ①安眠のための介護の工夫、②環境の整備(温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室)、③安楽な姿勢・褥瘡予防</p>
<p>(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護</p>	3			3	<p>終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援 (演習) ①終末期ケアとは、②高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死)、③臨終が近づいたときの兆候と介護、④介護従事者の基本的態度、⑤多職種間の情報共有の必要性</p>

(13) 施設実習			7	7	各施設での実習でより効果的な研修になることをめざす。
(14) 介護過程の基礎的理解	6			6	①介護過程の目的・意義・展開、②介護過程とチームアプローチ
(15) 総合生活支援技術演習	6			6	(実技演習) 各研修生がそれぞれ、生活の各場面での介護について、ある状態の利用者になることを想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する
10 振り返り	4	—	—	4	(到達目標) 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。
(1) 振り返り	2	—	—	2	(講義) ①研修を通して学んだこと ②今後継続して学ぶべきこと ③根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	—	—	2	(講義) ①継続的に学ぶべきこと ②研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例(Off-JT, OJT)を紹介 (演習) ビデオなど

※記載内容は、要綱の別紙2の内容を網羅したものとする。

※講義と演習は一体的に実施すること。「目標、内容等」は目次を設けて分かりやすく記載すること。なお、科目9の(6)から(11)および(15)の実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は30分単位とする。